

生涯を通じてスポーツに親しむ環境作りのため、地域住民が自主運営で取り組む「総合型地域スポーツクラブ」。県内では2月末現在、35クラブが活動中で、設立準備中が5クラブある。びわこ成蹊スポーツ大学（大津市北比良）4年の平松知洋さん(22)は、卒論に「総合型地域スポーツクラブ会員のクラブに対する帰属意識に関する研究」を取り上げ、何がクラブ運営の鍵を握り、活動継続にどんな方策が必要かなどを調査し、県体育協会に報告した。

(村山明子)

家族と触れ

合いたい

46%が期待



2月末現在、県内で35を数える総合型地域スポーツクラブ。今後の普及に期待がかかる（昨年12月、県立長浜ドームで開かれた交流大会）

県体協に報告「重要なのは会員増、マネジャーの存在」

総合型地域スポーツクラブの研究結果を県体育協会の中松さんに報告する平松さん(左)



平松さんはスポーツ学部競技スポーツ学科マネジメント・情報コースで学び、自身も学内に設立された総合型地域スポーツクラブ「BIWAKO SPO RTS CLUB」のメンバー。「海外では古くから取り組まれている団体たくさんあるが、日本では始まったばかり。継続した運営には何が必要かを探りたい」と、総合型地域スポーツクラブの研究を取り上げた。

クラブ会員へのアンケートは昨年12月の総合型地域スポーツクラブ交流大会で実施。「スポーツをする理由」「クラブへはなぜ参加する理由」「クラブへの期待」を調査した。その結果、最も多い回答は「家族と触れたい」ということだった。また、クラブの運営に「マネジャーの存在」が重要という意見も多かった。平松さんは、自主運営が大きな特徴でもあるクラブにとって「積極的に運営にかかわる会員を増やすこと」が自分たちのクラブという意識を常に持つてもらう工夫▽総合的な運営の要となるマネジャーの存在が重要としている。

クラブを総括する県体育協会の中松秀夫副主幹(47)は「クラブに対する帰属意識という調査は、今までになかった興味深い内容。特に、家族と参加している会員がコミュニケーションの場として活用しているという報告は、クラブが目指すものの一つが実現できているようにも思う」と評価。

その上で「成人の50%以上がスポーツに取り組める社会の実現に向け、総合型地域スポーツクラブの存在は重要。健康維持、住民同士の触れ合いの場や子ども

誰と参加しているか」「クラブへの評価」などは項目の調査用紙に記入してもらった。

富山県でも同大学生が同様の意識調査を行い、集計した結果、クラブ参加で期待する人は、家族との触れ合いを挙げた人が富山の36%に対し、滋賀46%と上回った。

また、ボランティアとしてクラブに貢献する活動を増やしたいと思

翔んで！

旅行业协会へ就職が決まった平松さんは、県内勤務の希望が通ればクラブ会員として、より深くかわって行きたいと、「県内だけでなく、全国のクラブが情報を交換できる場ができると思います」と話している。